



第36首

甲賀エリア

作者 犬童まみ

歌意 街で沢山の信楽焼のタヌキがきれいに並んでいるのを見ました。それぞれが笑顔でいたい何を考えているのかなと、思った時に浮かんだ一句です。



第42首

湖北エリア

作者 ヒロッサン

歌意 去年初めて醒ヶ井の梅花藻を見ました。水中で満開に咲き誇る小さな花は香りなどしないけれど、涼しげな香りが香ってきそうでした。



第46首

甲賀エリア

作者 黙漣

歌意 琵琶湖から遠い甲賀も、川の水はとめどなく琵琶湖に流れ込んでいます。そう考えると、甲賀も琵琶湖と共に生活があるのではないかと思い詠みました。



第52首

湖北エリア

作者 佐藤智美

歌意 浅井家が、家の繁栄を望み、竹生島に弁財天像を奉納していたことを想い詠みました。



第37首

琵琶湖

作者 井田寿一

歌意 琵琶湖の稚鮎は、全国に運ばれて放流されるというが、これは目下最盛期の漁そのもの。今は温暖化の影響で水温も高く漁獲量も少ない。

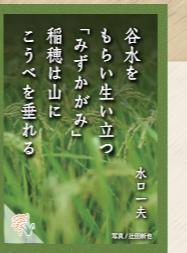


第38首

琵琶湖

作者 天野周

歌意 うみのこに乗る小学五年生達の未来が明るくありますようにと力強く応援します。



第47首

その他

作者 水口一夫

歌意 棚田のある山里は、奥山からの谷水で稻を育てます。秋になると稲穂「みずかがみ」が山に向かって頭を垂れる風景は、お札を言っているかのようです。



第53首

湖北エリア

作者 川井康陽

歌意 西国巡礼で唯一船で参る竹生島、何度も訪れるたびに昔の巡礼の苦労をしのびます。

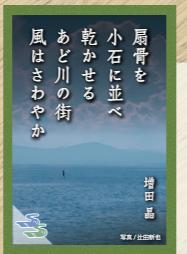


第39首

東近江エリア

作者 画風

歌意 近江八幡の水郷めぐりの情景です。

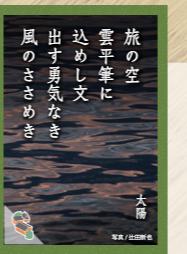


第43首

高島エリア

作者 増田晶

歌意 ある夏の日に遠出をして安曇川に行き扇骨干しを見ました。作業工程の一つで大切な役割と知り思いを深くしました。



第49首

高島エリア

作者 太陽

歌意 旅行先で買った雲平筆で、片想いの相手に手紙を書いたけれど、結局出す勇気が出せなかったことを詠みました。

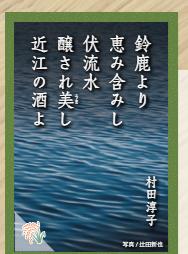


第55首

大津エリア

作者 ながぶー

歌意 映画からかるたに興味も持ちました。詩や景色から時を超えた歌人に触ることができそうな近江神宮へ一度訪れたいたと思っています。

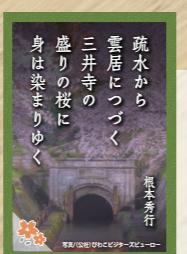


第40首

その他

作者 村田淳子

歌意 滋賀には鈴鹿の伏流水を仕込み水にして醸した美味しい地酒がたくさんあります。万葉の頃より人々に愛された国酒の価値を多くの人に伝えたい思い。

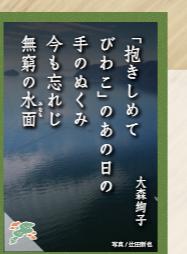


第44首

大津エリア

作者 根本秀行

歌意 琵琶湖疏水の両岸に植えられた桜並木は、三井寺の観音堂から雲に続くかと思われるほど。大好きな春の景を歌にしました。



第50首

琵琶湖

作者 大森絢子

歌意 周囲約235kmの湖の汀に人人人。繋いだ両手に伝い来る温かさに感動と一体感が。後に総勢16万人と知りました。2011年11月6日の波音今も耳に。



第56首

湖北エリア

作者 佐藤明子

歌意 湖北には、己高茶(こだかみぢや)などの有名なお茶があります。夏が近づくと、茶の葉を丸める姑の指先も初夏の色に染まっているようで大好きでした。

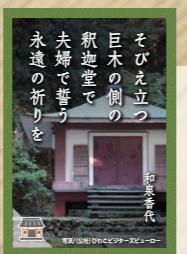


第41首

大津エリア

作者 うま吉

歌意 『成瀬は天下を取りにいく』を読み、西武大津店跡地を訪ねた実体験をもとに、現実の風景に成瀬の声を感じた感覚を詠みました。

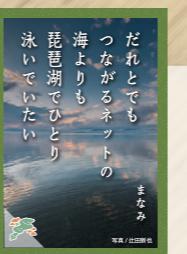


第45首

その他

作者 和泉香代

歌意 釈迦堂と側の大木を夫婦で眺めていました。結婚生活20年続いたことの感謝と、これからも夫婦仲良く過ごせますように願いを込めました。



第51首

琵琶湖

作者 まなみ

歌意 誰とでもつながるスマホやPCのネットの海よりも愛する琵琶湖でひとり泳いでいたほうがいい、という気持ちを詠みました。



第57首

湖北エリア

作者 田中恭司

歌意 竜神拝所では、かわらけ投げが有名で、願いを書いたかわらけが鳥居をくぐれば願い事が成就すると言われています。しかし、なかなか鳥居をくぐりません。